
ハヤテのごとく！ ～三千院家の音楽執事～

『忍法・記憶喪失』

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ハヤテのごとく！ ～三千院家の音楽執事～

【Nコード】

N3668BA

【作者名】

『忍法・記憶喪失』

【あらすじ】

親に勘当され、行くあてもなく路上ライブで一日一日をぎりぎりで生きていた雉沼 カイ、そんなある日彼の目の前にスーツを着た男が現れ連れ去られてしまった。連れてこられたところは、なんとあの大金持ちの三千院家だった、そこでかれは音楽執事として雇われることになった

プロローグ（前書き）

どうも、ちゃーっすです。いところの家で初めてハヤテのごとくを見て面白いと思ったので書いてみました

それではどうぞ

プロローグ

♪~~~~・・・?~~~~♪~~~~・・・

「パチパチパチパチ・・・」

かすかな拍手が聞こえてくる

（きょうはこれぐらいにするか）

青年は帽子に入っている少しの金を取り出し、さっきまでひいていたギターをケースの中に入れ、その場を移動しようとしたその時だった。いきなり目の前に黒いスーツを着た2mはあろうかという二人組の男たちが青年の目の前に現れた。青年は男たちをよけようとした瞬間、一人の男に腕をつかまれ腹におもいパンチを食らわせた

「うっ!？」

青年は唸り声をあげそのまま止めてあった黒い車に押し込まれてしまった

「お嬢様、この男がお嬢様が言ってた男ですか？」

ハヤテはベッドに寝かされている青年の顔を覗き込みながらナギに言った

「ああ、間違いない、その男だ路上でギターを弾いていたのは」

そう答えるナギ

「でも、ナギ、急に連れてこられては、悪かったんじゃないの？」

心配そうに言うマリア

「大丈夫だマリア、こいつの身なりを見てみる、こんなみすぼらしい格好をしたやつに何の用事があるというのだ」

毒舌をかますナギ

「いえ、お嬢様、これは普通の服装でございます」

そう突っ込みながら再度顔を覗き込むハヤテ

「なんだか他人に思えないなあ」

そう呟くハヤテ

「うっ・・・」

「あ！お嬢様目を覚ましましたよ」

ハヤテは青年が目を覚ましたことをナギに伝えた

「ホントか！」

待ちに待ったようにナギは言った

「うう・・・ん？・・・ここどこだ？確か俺スーツの男に気絶させられて・・・そのあとどうなったんだっけ？・・・あれ？」

頭をかきむしりながら考える青年

「あのおちよつと落ちて着いて」

青年を落ち着かせ事情を説明するマリア

それはナギが珍しく一人で学校に行こうとした時のことだ、見事に迷子になってしまっていたナギ、すると、どこからかギターの音が聞こえてきたらしく、ふと見てみると青年が路上でギターを弾いていた、その青年こそ連れてこられた青年だった、その演奏に心奪われたナギはその青年を三千院家の音楽執事にすると言い出し、現在に至るわけだ

「まあそんなところだ、もしよかったら家で音楽執事として働いてみないか？」

そう頼みこむナギ、ちなみに音楽執事とは、音楽を主に演奏する執事のことだ

「いや・・・てか俺、執事とかやったことないし」

断りを入れようとする青年

「それなら大丈夫、僕も最初はそうだったけど、徐々に慣れていくから」

ハヤテは彼に向かっていった

「最初？」

青年はハヤテに疑問を問いかけた

「ああ、僕の親ギャンブル好きで無職で、そのうえ借金を僕に残してどっかいつちゃて、それで、借金取りに追い込まれそうになった時ナギお嬢様・・・の知り合いにが助けてくれて、そのままお嬢様に拾われて、ここで執事として働くことにしたんだ」

自分の過去を語るハヤテ

「大変だったんだな・・・なんか他人とは思えねえ」

と、ハヤテとまったく同じことを言う青年

「それで、やるのか？やらないのか？」

ナギは青年に問いただした

「本当に俺でいいの」

逆に聞き返す青年

「あたりまえだ、でなかったらお前をここに招いていない」

ナギはそういい返した

「・・・よし！、行くあてもないし、ここで働かせてもらいます。

一生懸命やるのでよろしくお願いします」

青年は深々と頭を下げた

「うむ」

そう頷くナギ

「ところであなた、名前は？」

マリアが青年に聞いた

「ああ、すいません僕の名前は、雉沼カイと言います」

自己紹介をするカイ

「私は、三千院家に仕えるメイドのマリアです、よろしくね」

「同じく、三千院家に仕える執事の綾崎ハヤテ、よろしく」

「そして私が三千院財閥の令嬢である、三千院ナギだ、よろしく頼む」

三人が自己紹介を終えた

「いえいえ、こちらこそよろしく願いします」
再度深々と頭を下げた

「それじゃあ、まず服を着替えてもらうぞ、そんな汚い恰好でうつかれては三千院家の名誉にかける、お前がねている間に採寸はすんでいる、ホラ。」

ナギは毒舌を言いながら、カイ専用の執事服を渡した
「へ？」

驚くカイ

その後カイは試着室に放り込まれた

「それにしても金持ちってすげえなあ」

無駄に広い試着室を見回し着替えを始めた

「これ執事服だよなあ・・・これがふつうなのか？」

疑問を抱くカイ、それもそのはず、シャツと上着とリボンとは普通なのだがズボンが執事服ではなく、ダボダボのサルエルパンツなのだ。それに帽子^{ハット}まで置いてあった

「帽子はうれしいけど・・・まあいいか」

自分に言い聞かせるカイ、そうして着替えを済ませ、ナギ達がいるところに戻った

「おお、似合ってるじゃないか」

ナギはカイに言った

「ありがとうございます・・・じゃなくてありがとうございます。お嬢様」

お礼を言い直すカイ

「確かに似合ってますね」

ハヤテもそういった

「おお、ありがとう」

カイもまたお礼を言う

「大きさがピッタリでよかったわ、あなた背が高いから」

マリアが安心そうに言った

「はい、俺180cmあるんで、ピッタリでビックリしました」
驚いた声で言うカイ

「これでお前は、三千院家の執事だ!」

「はい、一生懸命やらせていただきます」

そう決心したカイ

プロローグ（後書き）

駄作でございますがこれからよろしくお願いします

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3668ba/>

ハヤテのごとく！ ～三千院家の音楽執事～

2012年1月9日15時45分発行